

『幻滅』 作中人物紹介

リュシアン・シャルドン 貴族であった母方の姓はド・リュバンブレ。アングレーム下町の薬屋の息子。文才に恵まれた美青年だが、バルジュトン夫人と親しくなったことをきっかけに、運命が激変する。

バルジュトン夫人 旧姓ネーグルプリス。愛称ナイス、またはルイズ。アングレーム社交界の花形。文芸愛好家。田舎で退屈している。

デュ・シャトレ 平民の出だが、帝政下で男爵に取り立てられ、皇女の侍従を務める。その後税務署長となってアングレームに赴任。

ジェローム・ニコラ・セシャル アングレームのがめつい印刷屋。読み書きができず、後を継いだ息子ダヴィッドに辛くあたる。

ダヴィッド・セシャル リュシアンの子供時代の親友。勤勉で思索的。リュシアンの子供時代の妹エーヴと恋に落ちて結婚。製紙技術の改革を夢見る。

エーヴ リュシアンの子供時代の心優しい妹。夫ダヴィッドに尽くす。

ダニエル・ダルテス パリの芸術サークル「セナークル」のリーダー。清貧の生活を送っている。

エチエンヌ・ルストー パリのしがないジャーナリスト。リュシアンの子供時代の新聞業界に引き入れる。

コラリー パリの美人女優。絹物商に囲われているが、リュシアンの子供時代に一目惚れする。

デスパール侯爵夫人 バルジュトン夫人の遠縁。パリ社交界のファッションリーダーであり、絶大な影響力を持つ。

コワンテ兄弟 アングレームの印刷業者。セシャル印刷所のライバル。

プティ=クロ アングレームの代訴人。リュシアンと中等学校で同級生だった。検事の座を狙う野心家。

ドリア パリ「木造回廊」の有名な出版業者。

ラストニヤック リュシアンと同郷の青年。パリ社交界ダンディーの一人。

もしジャーナリズムが存在していないのなら、
まちがってもこれを発明してはならない。

オノレ・ド・バルザック



藤原書店